

海外生活 レポート 45



大石さんと現地語のキニアルワンダ語を、根気よく教えてくれる親友ベネザさん

大石 祐助さん

ルワンダ共和国 ルワマナガ郡に赴任

川崎市出身

任期:2020年1月~2022年1月

*2020年3月より新型コロナウイルス感染拡大の影響で一時的に帰国していましたが、2021年4月より再赴任しました。

千の丘の国、ルワンダ

ルワンダは、赤道直下の小さな内陸国。面積は、四国の1.5倍ほどしかありません。緑豊かな丘陵が連なった、その景観は圧巻です。標高が1000メートルを超えるため、平均気温22度と過ごしやすいのも特徴です。

治安が良いのも、過ごしやすい理由のひとつ。暗くなってからもひとりで出かけることが出来るほどです。ルワンダと言うと、1994年の民族対立による大虐殺(ジェノサイド)をイメージする方が多いので、意外なのではないでしょうか。

私は、マーケティング職員として東部県にあるルワマナガ郡庁に配属されており、経営の改善を目的に、個人経営のオーナーや協同組合の支援をしています。

支援先は、衣服の仕立て屋、パン屋、大工や溶接工、炭の専門店、自転車タクシーなど、レパートリー豊富で、刺激的な毎日を送っています。

顧客を獲得する方法や新しいサービスを考え、どうしたら利益が出るのか、ルワンダ人と一緒に頭をひねる日々です。



家のすぐ裏には、こんな絶景が。さすが、千の丘の国。

3ヶ月で5キロ太る! ルワンダごはん

ジャガイモ、さつまいも、キャッサバ^(注)、米、パスタ、豆。これがワンプレートで出てくるから、恐ろしい。味は美味しいのに、太るのが困りものです。私は、3ヶ月で5キロも肥えました。

ルワンダのレストランは、ビュッフェ形式です。ただ、選択肢は、イモ、イモ、イモ。もう体型は諦めて、食べることにしました。だって、ルワンダごはんが美味しいから仕方ない。

(注)キャッサバ…東南アジアやアフリカでもよく食される中南米原産のイモ。日本でも知られるようになった「タピオカ」の原料。



行きつけのレストラン。これがルワンダビュッフェ。

雨乞いをする日本人

私の住む地域では、1年以上も水がでませんでした。蛇口から水が出てこない生活を想像してみてください。本当に困るはず。手は洗えませんし、トイレも流せません。もちろん、シャワーも浴びれませんし、料理も洗濯もできないのです。



雨水を溜めている様子。雨季最高。

とはいえ、水がまったくなければ、生活ができません。そこで、雨水を溜めたり、自転車タクシーのお兄さんに頼んで、水を汲んできてもらう他ないのです。

ルワンダで暮らしていると、私たちがどれだけ水を使っているのかを痛感する毎日です。

コロナになんか負けない!ルワンダ

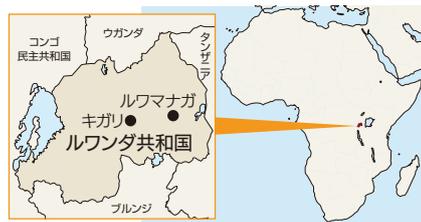


パン屋の売上拡大をサポート中。



炭の専門店では、会計を改善中。

INFORMATION



ルワンダ共和国

面積 26,300km²

人口 1,263万人

首都 キガリ

公用語 ルワンダ語、英語、フランス語、スワヒリ語



コロナ禍のルワンダ

ルワンダでは、コロナ対策が徹底されています。街ではほぼ100%の人がマスクを着け、スーパーやレストラン等の建物に入る際は手洗いと検温が必須。

加えて、政府から2週間ごとに、具体的な施策が発令されます。その結果、現在、コロナの新規感染者はほぼ2桁に抑えられています。(5月20日現在)

カガメ大統領の強力なリーダーシップと国民の努力の賜物です。そのおかげで、私たちJICA海外協力隊はルワンダに戻ってこれたのです。ほんとうにムラコゼ(ありがとう)です。



マーケットの前に、立派な手洗い場が誕生。